

一般財団法人 日本民間公益活動連携機構 (JANPIA)
第 81 回理事会 議事録

1. 日 時 2025 年 9 月 26 日 (金) 開会 15 時 00 分
閉会 15 時 33 分

2. 場 所 東京都千代田区内幸町 2 丁目 2 番 3 号 日比谷国際ビル 314
JANPIA 事務所内 会議室

※JANPIA 事務所内会議室を起点に、各出席者の音声や映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みとし、出席者が一堂に会するのと同等の相互に十分な議論を行うことができるという環境を確保した上で実施 (ZOOM を利用)

3. 出席者
理事長 二宮 雅也 [議長]
理 事 岡田 太造 清水 秀行 茶野 順子 鵜尾 雅隆
なお、理事長及び理事全員が ZOOM を利用して出席した。

監 事 柳澤 義一
なお、監事は ZOOM を利用して出席した。

事務局 大川 昌晴 (事務局長)

4. 議 案
第 1 号議案 2025 年度通常枠 (第 1 回目) 資金分配団体選定の件

5. 報 告
業務運営の状況全般について

6. 提出資料
資料第 1 2025 年度通常枠 (第 1 回目) 資金分配団体選定の件
資料第 2 2025 年度通常枠 (第 1 回目) 審査結果一覧

7. 議事概要

15 時 00 分開会、定款第 42 条により二宮理事長が議長となり、理事の現在数 5 名全員が出席しており、本理事会は有効に成立していることを確認し、開会を宣した。

なお、議事録署名人は、定款第46条第2項により、二宮理事長、柳澤監事となることを確認した。

(1) 議案審議

第1号議案 2025年度通常枠（第1回目）資金分配団体選定の件

岡田専務理事より、資料第1及び2に基づき、2025年度通常枠（第1回目）資金分配団体の選定について、審査委員各位による申請書類一式の手元審査及び申請団体とのヒアリングを踏まえた本審査が行われ、本理事会への推薦事業が確定したため採択についてご協議いただきたいこと、2025年度通常枠予算は62億円であるが、うち5億円は活動支援団体に充当するものとされ、通常枠上限57億円に対し、65事業（申請総額約123億円）のうち10事業（申請額合計約17億円）の推薦を受けており、予算残額（約40億円）を通常枠（第2回目）の公募に充てるものとする事等の説明があった。

続いて、大川事務局長より、申請件数は全体として増加傾向にあり、特に草の根活動支援事業の比重が高まっていること、ソーシャルビジネス形成支援事業を中心に、申請事業の中に成果につながる仕組みや仕掛けが備わっているか、その出口戦略の在り方等が審査会議の主要論点となったことの説明があった。また、審査会議から推薦を受けた10事業のうち、過年度に採択されていない団体は1事業に留まったこと、推薦事業の申請総額が予算よりも大幅に少ない結果となったこと等を踏まえ、第2回の公募に向けては、今回採択に至らなかった団体に対する丁寧なフィードバックや、説明会においてJANPIAが申請事業に対して求めているポイントの周知等に努めていくことなどの説明があった。

また、本日欠席の土岐監事からも、採択に至らなかった申請団体への丁寧なフィードバックが次回の申請につながるといった効果が得られるよう期待したいとのコメントがあったことが報告された。

これに対する質疑応答は以下の通り

- （鵜尾理事）「採択に至らなかった主な理由」のうち、「申請事業の発展性や申請事業終了後の展望が不明確」という点を公表することは過去の採択実績に関係なくこれが大切な評価基準であることのメッセージになると考える。「助成申請額が目安額を大幅に超過する事業計画となった理由が不明確」という点については詳細を伺いたい。
- （大川事務局長）公募要項において理由を示すことが必要事項として求められているが、その記載が無かったケースと、記載はあるもののヒアリングにおいて明確な回答が得られなかったケースの双方がある。
- （鵜尾理事）目安額はあくまで目安であるため、それを上回ることが一律許容されないとの誤解を防ぐ意味でも、公募要項において目安額を上回る場合は申請書に明確な理由の記載を求める現行の運用が理に適っていると理解した。
- （茶野理事）資料第2に各申請事業の事業年数が記載されていない理由は、通常枠は原則3年間と規定されているためか。また、各事業において想定される実行

団体数を申請団体から事前に回答いただくことで、審査員が事業の規模感や想定予算を見積もりやすくなるのではないかと。

(大川事務局長) 1点目についてはご理解の通り。2点目については、事業計画書に採択予定実行団体数を記載する欄があり、これをもとに実現可能性や実効性、事業の目的と合致しているのかという点を審査員に丁寧に確認いただいている。

以上の質疑応答の後、決を採ったところ、異議なく可決承認いただいた。

8. 報告事項

(1) 業務運営の状況全般について

大川事務局長より、業務運営の状況全般について、2025年度の公募は、活動支援団体分が2025年9月上旬で締め切られ、これから審査のプロセスに移行すること、資金分配団体(通常枠・緊急枠)第2回分が同10月より開始となること、出資事業分が同9月上旬より開始され、同9月17日に公募説明会及び評価ガイドライン説明会を開催し、今後は2024年度公募と同様に、本申請に向けて複数のステップを設ける形で対応を進めていくことの説明があった。また、災害対応に携わる団体関係者に参集いただき、能登の今後を考える勉強会をオンライン配信で同9月3日に実施したこと、休眠預金等活用審議会の新旧委員向けに、休眠預金活用事業の現在地と展望等を共有することを目的としたサマーセミナーを同9月10日に実施したこと、同9月19日に審査委員意見交換会及び活動支援団体意見交換会を実施し活発な議論が展開されたこと、それらを今後の取り組みにつなげていきたいこと、同10月16日にギャザリング、同11月14日に東京マッチング会をそれぞれ開催予定であること、コンプライアンスに関して、外部委員を招いた委員会を開催したことに加えて、役職員向けの研修も実施し周知徹底を図っていること等の説明があった。

以上をもって、ZOOMを利用した第81回理事会の議事は、終始異状なく本日の議事をすべて終了したので、議長は出席の理事、監事にその協力を感じ、15時33分、閉会を宣言した。

上記の議事の経過及びその結果を確認するために、議事録署名人は、次に記名押印する。

2025年 月 日

一般財団法人 日本民間公益活動連携機構

議事録署名人(理事長) 二 宮 雅 也 (印)

議事録署名人(監事) 柳 澤 義 一 (印)

以 上